

《平成 11 年度前期の浮魚類の漁況経過と今後の予測》

平成 11 年 10 月、日本海区及び西海区水産研究所と関係府県により、対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の、平成 11 年度前期（4 月～9 月）の漁況経過と平成 11 年度後期（平成 11 年 10 月～平成 12 年 4 月）の予測についての検討がなされました。

マアジ資源減少傾向！？

大中型まき網による東シナ海～日本海西部海域におけるマアジの漁獲量は(図 1)、昭和 55 年以降増加傾向にありましたが、平成 7 年に大きく減少しました。その後は比較的高水準で横這い状態にあります。近年の漁獲の主体は 0～1 歳の小型魚が中心となっています。平成 11 年度

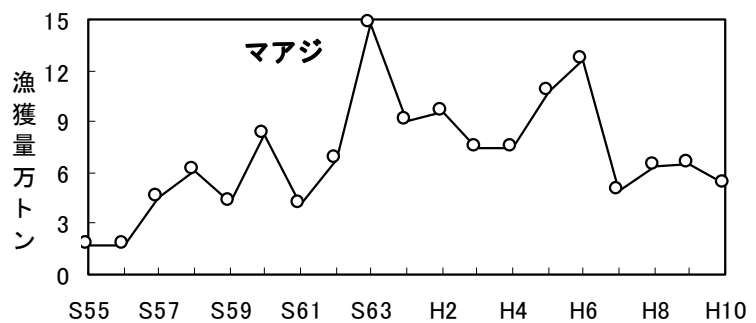


図1 大中型まき網による東シナ海～日本海西部におけるマアジ漁獲量

前期は、東シナ海を主漁場とする大中型まき網や山陰～九州西岸域での漁獲が振るわず、対馬暖流域全体での資源は減少傾向にあるのではないかと考えられます。したがって、平成 11 年度後期の漁獲量は前年をやや下回るという予測をしています。ただし、沿岸域も含めたマアジの資源水準については、正確に把握することが難しく、平成 10 年前半の九州北部から山陰沿岸にかけての豊漁のように、沿岸域では局所的に豊漁になったり、あるいは不漁になる可能性もあります。

マサバ資源やや増加か！？

島根県～青森県にかけての漁場におけるマサバの漁獲量(図 2)は、大きな変動を繰り返しながらも、平成 5 年以降比較的高水準にありましたが、平成 10 年は前年に引き続き減少しました。漁獲の主体は 0～1 歳魚です。平成 11 年前期の東シナ海での大中型まき網の漁獲状況は、漁獲量は前年同期をやや下回ったものの、9 月になってマメ(0 歳魚)の

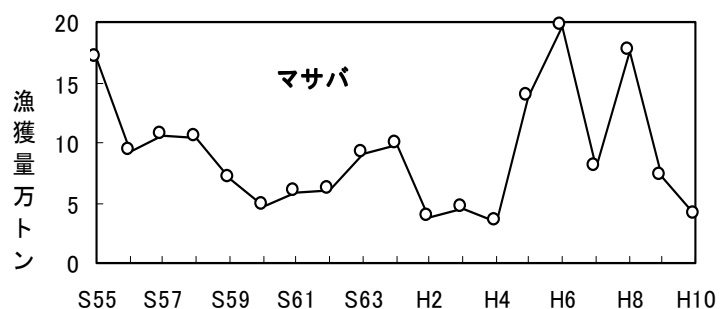


図2 日本海(島根～青森)におけるマサバ漁獲量

比率が高くなっていることから、平成 11 年級のマサバ資源の状況は平成 10 年級に比べ資源量が大きいのではないかと考えています。平成 11 年度後期の漁模様ですが、平成 8 年に東シナ海(済州島周辺)で比較的大型のマサバの豊漁があったとき、日本海での漁獲量にそれほど反映されなかつ

たことを考えると、東シナ海での資源状況がそのまま日本海に反映するかどうかについては疑問ですが、対馬暖流域全体での漁はやや期待できるものと考えています。

マイワシ減少傾向止まる!?

対馬暖流域のマイワシの漁獲量(図3)は平成9年までは減少傾向にありましたが、平成10年は若干増加しています。また、平成11年度前期の漁獲状況は東シナ海を中心とした大中型まき網による漁獲量が前年を下回ったものの、山陰沿岸の大中型まき網および中型まき網では前年を上回っています。また、太平洋側でのマイワシ漁は銚子沖などを中心に日本海よりも好調で、平成11年の1月~9月までの漁獲量は前年の約3倍程度となっています。このようにマイワシ資源の減少傾向にも歯止めがかかってきたようにも見受けられます。

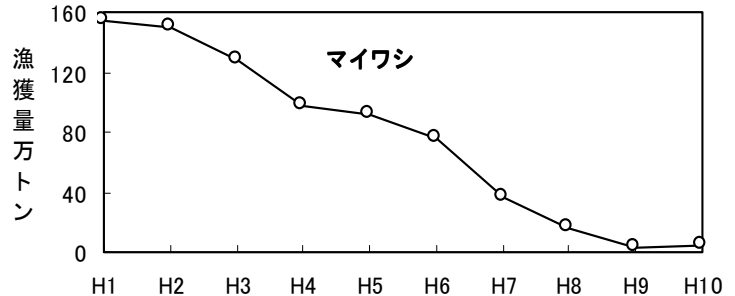


図3 対馬暖流域におけるマイワシ漁獲量

しかし、資源水準は依然として低水準であるため、すぐに増加に転じるとは考えにくく、しばらくは低水準状態が続くものと思われれます。

カタクチイワシ増加傾向!

島根県~新潟県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)を示します。平成2年以降増加傾向をたどり、平成9年に大きく落ち込んだものの、平成10年には大きく増加しています。カタクチイワシは、現在対馬暖流域で漁獲される浮魚類の中でもっとも資源の状態が良い魚種であると考えられ、しばらくは高水準を継続するものと思われれます。平成11年度後期は大型群が主対象となり、12月から翌年3月を中心として活発な漁があるのではないかと考えられます。

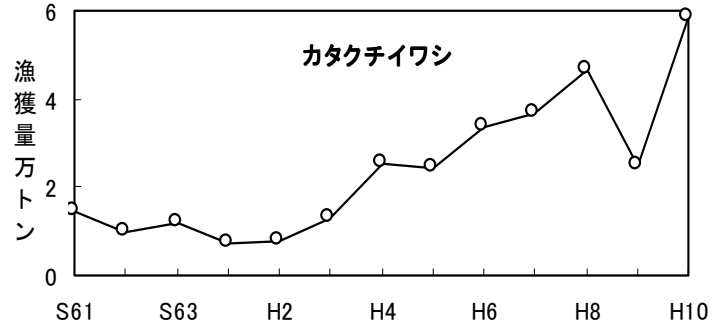


図4 日本海(島根~新潟)におけるカタクチイワシ漁獲量

ウルメイワシやや増加か!?

島根県~新潟県までのウルメイワシの漁獲量(図5)は平成6年以降減少傾向にありましたが、平成10年は若干増加に転じています。平成11年度前期の漁獲状況は、九州沿岸域では低調に推移したところが多かったのですが、日本海沿岸域では比較的好調に推移しました。

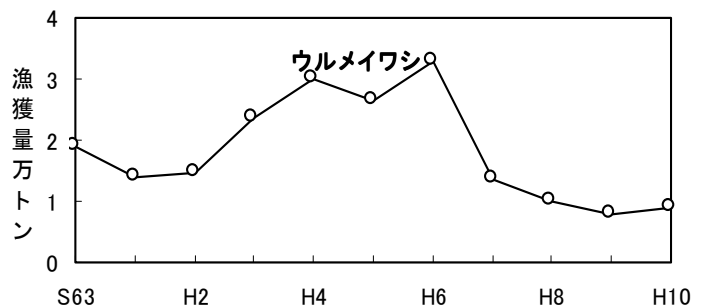
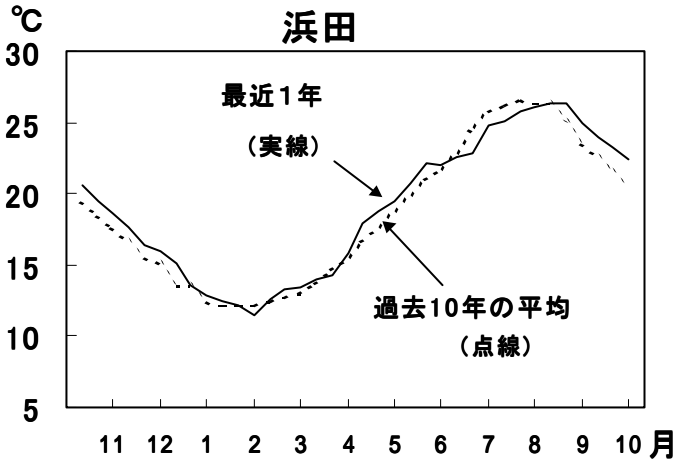


図5 日本海(島根~新潟)におけるウルメイワシ漁獲量

《 10月の海況 》



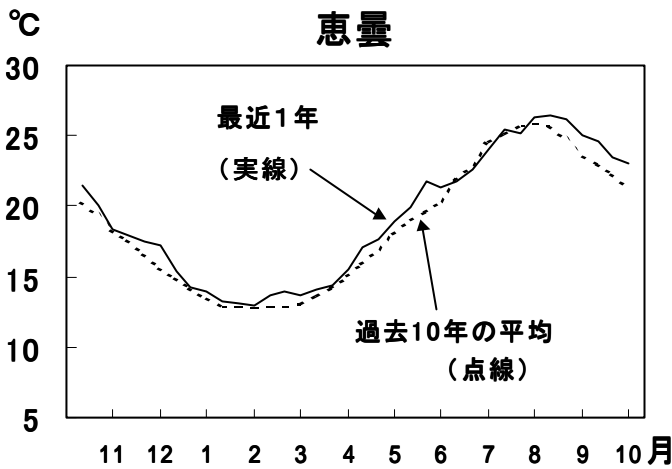
定地水温

10月	月平均	平年差	評価
浜田	23.2	+1.7	はなはだ高め
恵曇	23.7	+1.5	はなはだ高め

10月の月平均水温は9月に比べ浜田で2.7、恵曇で2.1下降し、浜田、恵曇ともに平年に比べ「はなはだ高め」と、例年にない高い水温経過が続いていました。

島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(10月下旬~11月上旬)によると、山陰海域の水温は沿岸海域ではほぼ全域で上・中層では平年より「かなり高め」、下層では「平年並み」となっていました。沖合域では冷水域の周辺では平年より低く、暖水域の周辺では高くなっていました。

また、11月上旬の山陰海域の水塊配置は、日御崎北西および隠岐諸島北西に冷水域が張り出していました。また隠岐諸島北方には暖水域が見られました。



《 10月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は1,125トンで、前年の44%、平年の33%と、低調に推移しました。水揚金額は前年の87%とこちらもやや低調に推移しました。漁獲の主体はマサバ、マアジ、マイワシでした。また、恵曇ではマイワシ、マサバ、ウルメイワシを主体に1,118トンの漁獲があり、前年の163%と好調に推移しました。浦郷ではマイワシ、ブリ主体に5,722トンの漁獲があり、前年の130%とこちらも好調に推移しました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ(2.5~3.5段主体)を中心に1,601箱で、前年の25%、平年の14%と非常に低調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカ(20入り主体)を中心に22,579箱の漁獲があり、前年の105%、平年の72%と前年同様やや低調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はソデイカ、スルメイカを中心に66.6トンで、前年の65%と低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は330トン、水揚金額は1億9,079万円でした。また1統当たり漁獲量は55トン、水揚金額は3,180万円(平年比:43%増)で、漁獲量は平年並みでしたが、水揚金額は平年を上回りました。主要なカレイ類は平年の1.8倍の水揚がありましたが、スルメイカを除くイカ類は平年を大きく下回っています。このほか、アナゴ、アンコウ、アカムツが好調で、平年の1.8~2倍の水揚がありました。

恵曇港の総漁獲量は191トン(平年比:17%減)、水揚金額は1億887万円(平年比:21%減)で、量・金額とも平年を下回っています。魚種別では、全体的に平年を下回るものが多いなか、ヤナギムシガレイ(平年比:2.1倍)、

アンコウ、メイタガレイ(平年比：1.3倍)はまとまった漁が見られ、平年を上回りました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における総漁獲量は290トン(前年比：92%)、水揚金額は1億4,144万円(前年比：89%)で、量・金額とも前年を下回っています。漁獲の主体は、浜田船ではキダイ、ケンサキイカ、地元船ではムシガレイ、アンコウとなっており、ムシガレイは前年の1.8倍の水揚げがありました。

大田市漁協における総漁獲量は145トン(前年比：70%)、水揚金額は7,684万円(前年比：82%)で、量・金額とも前年を下回っています。全体的に前年を下回っていますが、スルメイカ(平年比：3倍)、アカムツ(平年比：2.2倍)、ムシガレイ(平年比：1.5倍)は前年を大きく上回っています。

【定置網漁業】

浦郷と恵曇は、カタクチイワシやブリ、マアジなどが増加し、総漁獲量は前月を大幅に上回っています。浜田では、前月漁獲量の半分近くを占めていたサワラの入網が急減したこともあり、総漁獲量は前月をやや下回りました。ブリは0歳魚を主体に各地とも比較的好調な水揚げが続いています。マアジの漁獲量も前月より各地とも増加していますが、平年や前年同期に比する10%から25%と低調な漁況となっています。

【釣・縄】

出漁日数が前月を大きく上回ったものの、前年に比べイカ釣が不漁で全般的にやや低調な漁模様となっています。浜田はブリ類(ブリ・ヒラマサ)、ケンサキイカ、アマダイ主体で漁獲量18.5ト、水揚げ金額1,600万円と量・金額ともに前年を下回りました。五十猛はブリ類、クロマグロ(ヨコワ)、カサゴ類主体で、漁獲量21.9ト、水揚げ金額999万円と漁獲量は前年を上回ったものの水揚金額は減少しました。

漁獲統計

平成11年10月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	56	マサバ・マアジ・マイワシ	20ト	1,125ト
	恵曇	109	マイワシ・マサバ・ウルメイワシ	10.2ト	1,118ト
	浦郷	116	マイワシ・ブリ	49.3ト	5,722ト
イカ釣り	浜田(沖合)	282	スルメイカ	80.1箱	22,579箱
	浜田(沿岸)	212	ケンサキイカ	7.6箱	1,601箱
	西郷	394	ソデイカ、スルメイカ	169.2kg	66.6ト
沖合底びき網	浜田	26	ムシガレイ・アナゴ	12.7ト	330ト
	恵曇	37	ヤナギムシガレイ・キダイ	5.1ト	191ト
小型底びき網	和江	513	キダイ・アンコウ・ムシガレイ・ケンサキイカ	565kg	290ト
	大田市	296	ムシガレイ・ニギス・アナゴ類	490kg	145ト
定置網	浜田	73	ブリ・カツオ類・サワラ・マアジ	764kg	55.7ト
	恵曇	60	マアジ・カタクチイワシ・ブリ・カツオ類	389kg	23.3ト
	浦郷	27	ブリ・カタクチイワシ・マアジ・カンパチ	1,673kg	45.2ト
釣・縄	浜田	1,215	ブリ類・ケンサキイカ・アマダイ	15kg	18.5ト
	五十猛	674	ブリ類・クロマグロ・カサゴ類	32kg	21.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。